

# 大空の子

## 学校教育目標

- 知恵をみがき
- 清い心をはぐくみ
- 身体をきたえる子

令和3年2月15日(月)

帯広市立大空小学校

校長 川上 裕明

## まだまだコロナに注意

どうしても気になってしまう新型コロナウイルス新規感染者の数字は、ピークを越えたように見えます。しかし、緊急事態宣言は複数の都府県で3月7日まで延長、北海道の集中対策期間も3月7日まで続くことになりました。北海道・十勝管内の感染の報告もぐっと少なくなっていますので、「今が感染を押さえ込むチャンス」と言えます。本校でも変わらず児童の安全確保に注力しますので、ご家庭のご協力もお願いします。

オンライン授業参観は、3月上旬に授業動画配信予定です。準備が整い次第メールにてご連絡しますので、どうぞご覧ください。

3月24日(水)の卒業証書授与式は、今のところ「**式場には卒業生・教職員・卒業生の保護者(各家庭2名以内)で行う**」「**ご来賓はお招きしない**」「**在校生は教室で式場の中継を見ながらの参加**」を予定しています。

## 大空中スタイルで英語

大空中で英語科を担当している■■先生と■■先生が、6年生の英語の指導に来てくださいました。いつもの授業と一味違う授業スタイルは、新鮮でしたね。中学校の空気を感じることができたかな。

この日は、一つの教室に大空中のお2人・



英語の■■先生・学級担任の計4人の先生が指導してくれました。大空中の先生による英語授業、今年度は4回実施の予定です。

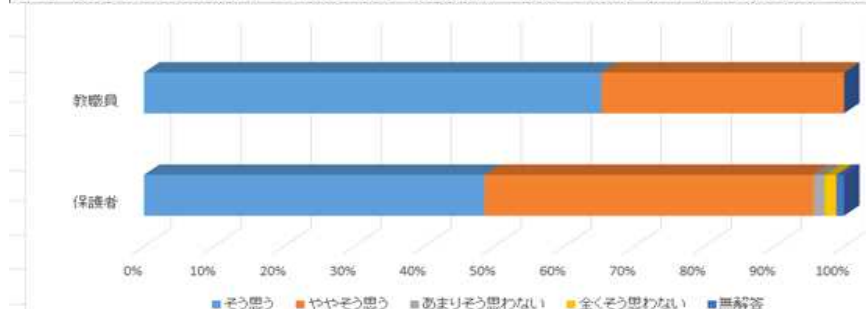
## 氷のお面

すっかり「帯広の冬の風物詩」になった氷のお面。例年は市内の小学2年生が作ったお面を帯広氷まつりの会場にずらっと展示していました。今年は氷まつりが縮小されたため学校前での展示となりましたが、おかげで笑顔いっぱいになりました。

## よりよい大空小学校を作るためのアンケート

7月に続き12月に2度目のアンケートにご協力いただきました。「今年2度目だから見えてくる」ことも多く、大変有意義な機会となりました。183件のご回答をいただきました

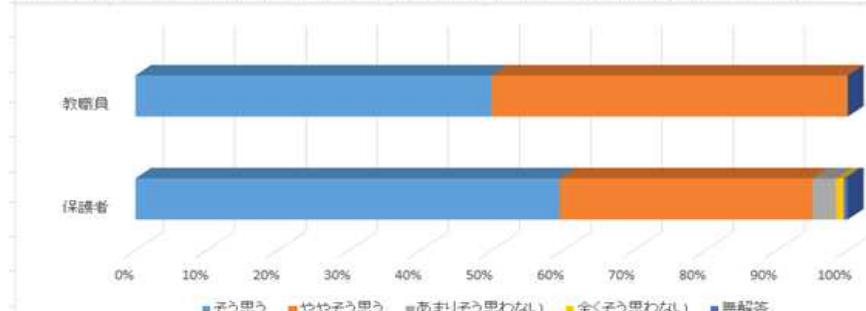
### ①学校は、教育方針や学校の様子を家庭や地域へわかりやすく伝えている。



けなかった分、なんとか児童の学校生活をお伝えるよう工夫しましたが……難しいですね。これからもその時点での状況に合わせて工夫していきますが、保護者の方から「こうしたらもっと良くなるぞ」などのご意見も、いつでもお聞かせいただくとありがたいです。

①保護者からの好意的なご意見は7月を上回り、感謝しております。一方で「全くそう思わない」というご意見が微増しています。学習発表会や授業参観といった学校行事でご来校いただ

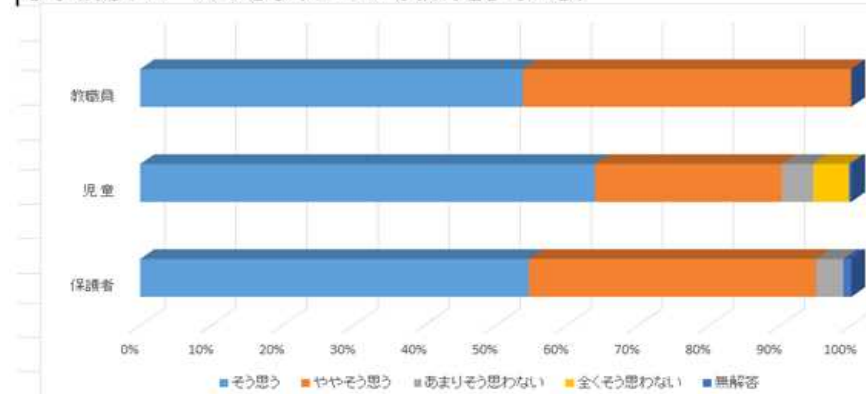
### ②学校は、保護者が我が子を安心して通学させられる場になっている。



ルはありません。学校からもご家庭にお知らせすべきものは電話等で迅速にご連絡するよう心がけていますので、ご家庭からもご不明なことはぜひご連絡ください。

②こちらも、保護者のからのプラス評価は増えているものの「全くそう思わない」も微増……という結果です。コロナ対応、校内外でのケガや事故、児童の人間関係など、安全安心にゴー

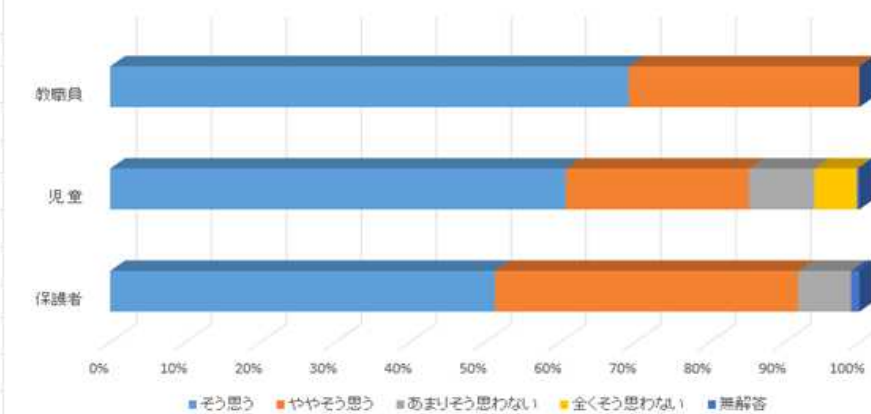
### ③学校は、ルールやきまりについて教育をしている。



ら良いことですが、これからより広い社会に出て行く子どもたちには、「それぞれの集団には守るべきルールがある」ことを意識させながら指導していかなくてはなりません。

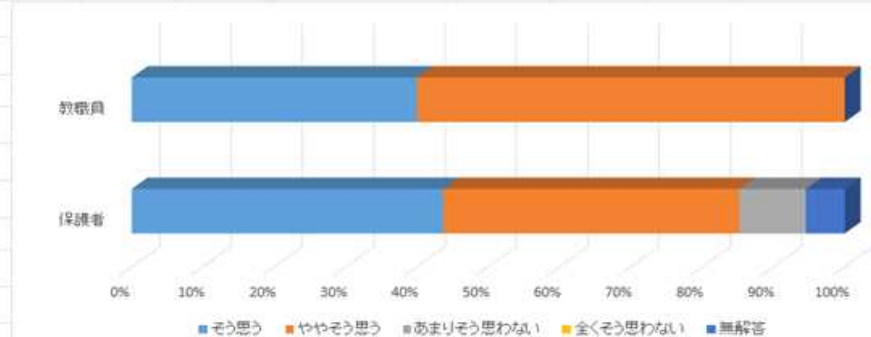
③教職員はややマイナス、児童は同様、保護者はややプラス評価となりました。気になるのは児童の「全くそう思わない」が、前回よりは減ったものの一定数あることです。「気付かないうちに指導されて身につけている」のな

④学校は、子どもや保護者の疑問や悩みに寄り添う姿勢をもっている。



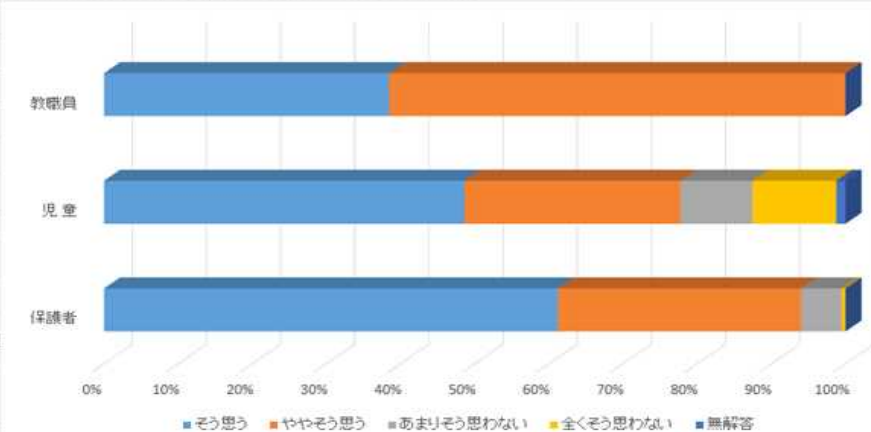
④保護者意見はややプラスですが、「そう思う」が半数に届かない状況。児童もややプラスですが「全くそう思わない」が気になります。アンケートの後に学級担任との教育相談があったので、少し好転してくれたかな。

⑤学校は、保護者や地域と協働して子どもを育てる体制を整えている。



⑤教職員と保護者ともにややプラスとなりました。様々な「新しい協働様式」を模索していますが、そのたび「昔は良かったなあ」「いろんなことができたなあ」と遠い目になってしまいます。地域の財産である子どもを育てるためには学校と地域の協働は必須ですし、時を戻すことはお笑いのぺこばにしかできませんから、新しい形の協働の形で児童を育てたい。

⑥お子さんは、笑顔で学校へ通っている。

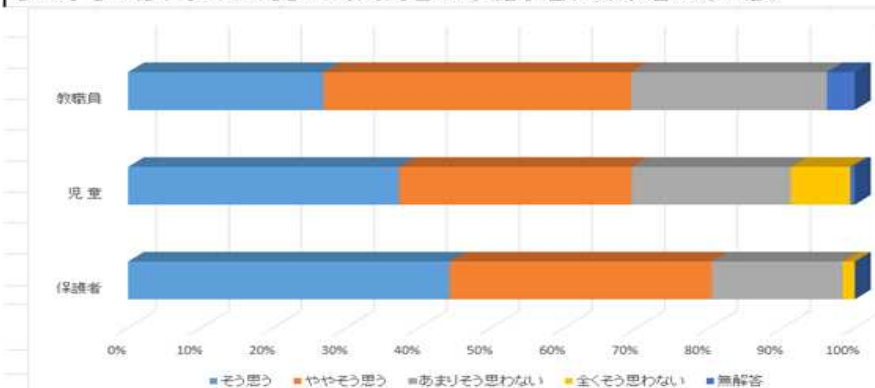


⑥川上が、いつも一番気にしている項目です。教職員が大きくマイナス、児童と保護者がややプラスでした。楽しみにしていた行事も少なくなり（遠足は雨中止～予備日も雨……）、笑顔になるタイミングが難しいかもしれません。

36人の児童が「全くそう思わない」と答えている現実を、重く受け止めます。

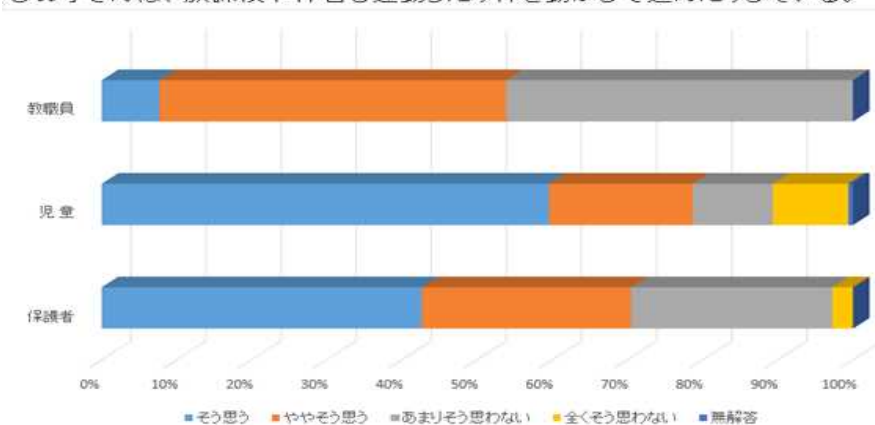
⑦～⑩は、いつものように教職員と児童・保護者の結果に同じような差異が見られます。児童は「私はやってます」と言って、保護者も「うちの子はますますだ」と考えているが、教職員は「全員ができていくというわけではない……」と評価が辛くなる現象のためでしょうか。

⑦お子さんは、学年に応じた時間内容の家庭学習に取り組んでいる。



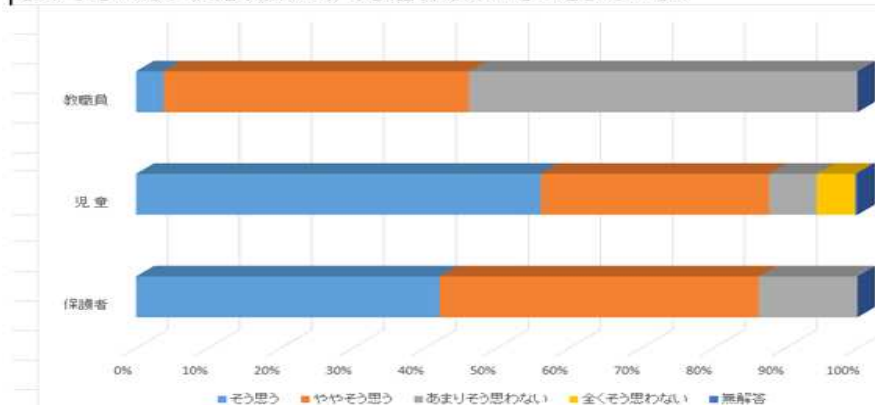
⑦に関わっては、年度初めにお渡しした「家庭学習の手引き」を今一度振り返っていただきたいと思います。学んだことをしっかり脳に焼き付けるためにも、「自分に必要な学びを考えて、取り組む」習慣をつけていきたい。

⑧お子さんは、放課後や休日も運動したり体を動かして遊んだりしている。



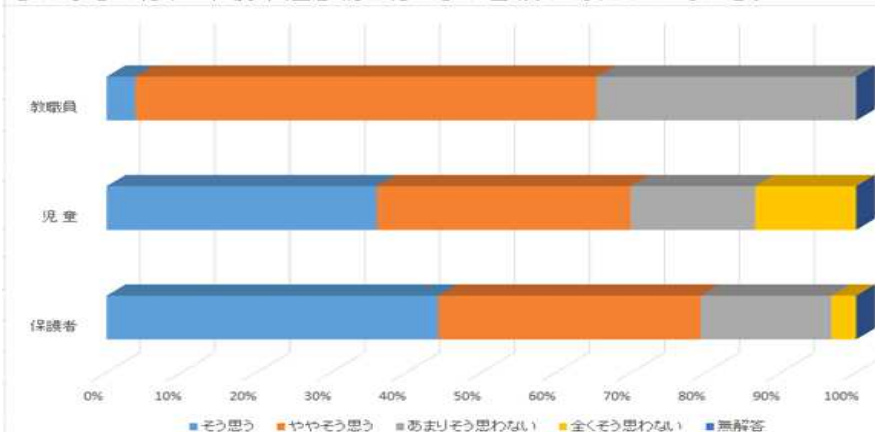
⑧は、今の状況ではなかなか難しい児童・家庭もあるかと思います。ただ、できる範囲で体を動かすことができているならば、グラフの数字にあまりこだわらなくてもいいと考えます

⑨お子さんは、家庭以外の場でも適切なあいさつをしている。



⑨は前回とほぼ同じ形のグラフになりました。ただ、朝の校門のあいさつに限定すると大空小児童は本当に素晴らしい。反面、校内で突然会ってしまった（……）お客さんにはモジモジしてしまう児童も多いのが現実。

⑩お子さんは、「早寝早起き朝ごはん」の習慣が身についている。



⑩は保護者のプラス評価が多くなりました。前は長い臨時休校が終わって間もなくだったため生活が整っていないあったのでしょうか。北海道教育委員会でも大事にしている「早寝早起き朝ごはん」、絶対に体にいい習慣です。